2014 広報がんばれ新潟　Vol. 5　2014. 1. 17　新潟県バレーボール協会中学校部発行

NIIGATA J.H.S. VOLLEYBALL

あけましておめでとうございます。本年も新潟県中学校バレーボールをよろしくお願いします。

JOCカップ全国都道府県対抗中学バレーボール大会 応援ありがとうございました!!

男女とも激戦を勝ち抜き決勝トーナメントへ!! 男子Best16 女子Best32

JOCジュニアオリンピックカップ

第２８回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

２０１４．１２／２６～２８　大阪市中央体育館・ボディメーカーコロシアム

＜男子予選６組＞

新潟　２（２５－２０　２５－１７）０　三重

新潟　１（２０－２５　２５－２１　１０－１５）２　宮崎

【予選順位】１位　新潟　２位　三重　３位　宮崎

＜決勝トーナメント＞

１回戦

新潟　２（２５－２０　２５－２２）０　大阪北

２回戦

新潟　０（２２－２５　２３－２５）２　香川

新潟県男子
決勝トーナメント２回戦敗退　Best16

＜女子予選５組＞

新潟　０（１６－２５　２４－２６）２　埼玉

新潟　２（１８－２５　２５－１７　１５－　９）１　北海道

【予選順位】１位　埼玉　２位　新潟　３位　北海道

＜決勝トーナメント＞

１回戦

新潟　１（１８－２５　２５－２２　２０－２５）２　神奈川

新潟県女子　決勝トーナメント１回戦敗退　Best32

最終結果

＜男子＞
優勝 長崎　２位 埼玉　３位 鹿児島・愛知

＜女子＞
優勝 福岡　２位 長崎　３位 長野・東京

１２月に行われたＪＯＣ応援練習会では過去最高となる１３４校のチームが参加するなど、県全体を上げてチーム新潟を支援していただきました。本当に有難うございました。

８月の結団式から４ヶ月、選手・スタッフ・保護者が一丸となり、選抜チームを創り上げていきました。例年参加している北信越５県対抗・横手わか杉カップをはじめ、多くの練習会を通してチーム力を向上させてきました。結果は上記に記載されてありますが、点数には表れていない素晴らしい場面を多く見ることができました。エースのケガやスランプを全員でカバーし合い、本大会に臨んだ女子。昨年のリベンジを誓い、予選グループ１位で決勝Ｔに進むも、ベスト８まであと一歩届かず、悔し涙を流した男子。男女とも万全の状態でないままの本大会でしたが、現有戦力で、新潟らしい爽やかな試合を展開してくれました。しかし、男女揃って２年連続決勝Ｔへ進出したのは大きな成果です。残念ながら、上位進出とは成りませんでしたが、今後の成長如何によって、さらなる成果が期待できます。

毎年のことではありますが、活動にご支援・ご協力いただいた皆様と、新潟県を代表して戦ってくれた選手、スタッフ、保護者の皆様に改めて感謝申し上げるとともに、これからの益々のご活躍を祈念いたします。

新潟県バレーボール協会中学校部　　柏崎市立東中学校　嶋津　建司

男子チーム監督より

昨年はＪＯＣの活動に対し、多大なるご支援ご協力を賜り、さらにはたくさんの激励までいただきまして誠にありがとうございました。また、わざわざ大阪まで応援に足を運んで頂いた多くの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

８月の選考会・結団式を経てからの４か月間の活動をしてきました。上位進出のチャンスがあっただけに悔しい結果となりました。しかし、選手一人一人はこの４か月の活動で身につけてきたことのすべてを出し切ることができました。

さて、４か月の活動を振り返ってみますと、とにかく毎週末の遠征、合宿を繰り返し、試合中に必要な技術・精神力を身に付けてきました。スタッフから毎回同じことを言われ、同じ練習を繰り返し行い、選手たちは精神的に体力的にも追い込まれた時が多々あったかもしれません。自信を無くすようなこともあったかもしれません。しかし、まじめな１２名はその一つ一つに前向きに取り組みました。意欲的にバレーボールに取り組みました。その成果が本大会で発揮できたと思います。特に、大会期間中は、試合をするごとに上達し、自信にあふれた表情で１プレー１点を積み重ねていく姿を見せてくれました。本当に頼もしく成長した選手一人一人に感謝します。

皆様のご期待に添えるような結果ではありませんでしたが、本活動を通じて選手一人一人はさらに成長してくれたと思います。この経験を必ずや新潟県のバレーボールの発展のために尽くしてくれると確信しておりますので、これからもご指導をしていただきたいと思います。

最後に、選抜チームに胸を貸してくれた県内の高校チーム、顧問の先生方、練習会場に足を運んでくださった先生方、様々な形で激励をしてくださった県内各地区、各校顧問の先生方等、多くの皆様に支えられた４か月間でした。本当にありがとうございました。また、４か月間選手の成長を支え、共に戦ってくださった保護者の皆様にチームを代表してお礼を申し上げ、あいさつとさせて頂きます。

女子チーム監督より

非常に真面目で、前向きな12名でした。今年度の12名は「経験」の差が大きいため、練習では自分たちで考えながら一つ一つを確認していきました。結果一人一人が「武器」をもち、どんな場面でも力を発揮できる、そういった素晴らしいチームになったと思います。

毎年新潟は初戦に緊張や不安から思うとおりに力が出せず結果が出ていませんでした。今年のメンバーならば、と思っていましたが、やはりその呪縛から逃れることはできませんでした。埼玉戦、相手のエースを封じてしまえば･･･と考えていましたが、今までの練習からはありえないような凡ミスが連発しました。サーブも弱くて簡単に切り替えされてしまい、「あれ、あれ？」と思っているうちに1セット目が終わってしまっていました。2セット目の中盤から調子を取り戻したものの、やられてしまいました。悔やまれる一戦でした。しかし、試合間に気持ちを切り替え、「無になって覚悟を決めて戦う」ことを確認した後の北海道戦は、1セット目こそ、相手の高さに押されましたが、その後は完璧に立ち直り、2,3セット目はこれ以上ないくらいに見事な戦いを見せてくれました。

決勝トーナメント神奈川戦、ここでもセットを取り返すという良い展開でしたが、惜しくも敗れてしまいました。素晴らしい試合だったが故に勝たせてあげたかった。そこが監督としての自分の力不足です。選手が4ヶ月必死でがんばってきた姿を一番知っているだけに本当に申し訳ない･･･。

選手の皆さん、この4ヶ月本当によくがんばりました。4ヶ月の間で君たちは、技術や戦術、そして心について、多くのことを学び成長しました。常に自分と向き合いながら練習を重ねる中で流した汗と涙が、これからの自分の人生の糧となれば幸いです。短い間でしたが、ついて来てくれてありがとう。

最後になりましたが、新潟県バレーボール協会･読売新聞社をはじめとする主催協賛各社の皆様方、そして陰から支えてくださった所属チーム顧問をはじめとする多くの中体連関係者の皆様方、快く胸を貸してくださいました高校･大学の先生方、物心両面に渡るご支援、ご協力、ご指導、誠にありがとうございました。そして何より、最後まで最強の応援と最高のサポートをしてくださった保護者の皆様には感謝に堪えません。新潟県選抜チームを応援してくださいました全ての皆様に感謝申し上げて、お礼の言葉とさせていただきます。